

放射線を使った医療に携わる医学物理士。3年以上の臨床経験を積んだ人が受験資格を得られる国内初の試験を突破し、4月1日付で認定された。秋田県出身。33歳。

—今の職に就いたきっかけは。

—祖父が脳梗塞を患っていたことに加え、自分自身物理学が好きで、その知識を使った医療で人の役に立ちたかった。この仕事の存在は高校時代の担任教師に教えてもらった」

—受験した理由は。

—自分の技術レベルがどの程度なのかを知りたかった

磐田市立総合病院初の治療専門医学物理士

みうら まさとし さん (浜北区西美蘭)
三浦 正稔

この人



た。先輩に教わったことが役に立った。挑戦させてくれる職場の環境もありがたい。今回の資格取得で、医学物理士の知名度向上に貢献できれば」

—試験の内容は。

—患者の安全や測定機器についてなど、放射線治療の専門知識と現場での判断

力を試す問題が出題された。出題範囲が広く、過去問もないので、合格できるとは思わなかった。培った経験が認められて良かった」

—今後の抱負は。

—2000年代から、機械やコンピューターの進歩が医療に直接影響を与えるようになった。医療機器の精度管理や安全性の確保が医学物理士の仕事なので、患者一人一人に、正確で効果的な治療を提供していきたい」

◇ 釣りが趣味。
(磐田支局・駒木千尋)